［特別企画２］

所内における医薬情報に関連した基礎知識の再確認
～おなやみ相談室～

佐藤勇人，小田島千尋，黒田　優，太田雄一郎，渡辺眞史
山形県赤十字血液センター

【はじめに】

地域センターでは製剤・検査の集約により，製造業に携わった人員が少なくなっている。製剤や検査の現場で，当たり前のように使われている血液に関する専門用語について，用語の意味や行っている事柄のエビデンスを理解し使っている職員は，実は少ないことが判明した。とくに入社５年前後の職員については，日々の業務をこなすのに精一杯であり，基礎知識を再確認する機会も少ない。また，勤務年数が経つにつれ，「聞きたいけど聞けない」という見えない壁が個人のスキルを低下させ，曖昧なままに経験年数を重ね，結果，職員間の情報共有が滞ることが散見されていた。このような現状を改善するため当センターが行った取り組みについて報告する。

【方　　法】

聞きたいことや疑問に思っていることなどの情報を明らかにするため，全職員を対象にアンケート調査を実施した。なお，ペンネームなどで個人が特定されないように配慮した。寄せられた疑問の内容に応じて精通した職員に講師を依頼，「おなやみ相談室」と称して勉強会を開催した。また，聴講型だと一方的になってしまうため，発言しやすい雰囲気づくりのなか，討論形式とした（**図１**）。また，習熟度を確認するため終了後にアンケート調査を実施した。

【結　　果】

聞きたいことのアンケート調査の結果（**図２**），製剤や輸血に関することばかりでなく，職種や入社年数によってさまざまな知りたいことがあるこ

図１

・全血（400mL，200mL），PC，FFPはそれぞれどんな患者さんに使用されるのか。
・起案の上手な書き方を知りたい。
・分割PCは単純に２つに分けるだけなのか。
・MRのM・Rってどういう意味ですか？
・山形で採血された血液はブロックに送った後，全部山形に戻ってくるのか。
・成分献血用のバスはなぜなくなったのか。
・供給計画はどのように策定しているのか。

図２

とがわかった。なるべく共通した疑問を選択して第１回「血液製剤の基礎知識について」を始めに，第２回「医療機関での血液の使用方法について」「HLA適合血小板の採血から供給まで」，第３回「起案や公文書作成について」，第４回「製剤ってどうやって作られているの？」「需給管理課の仕事について」第５回「新生児の輸血療法」を実施した。所長，事業部長をはじめ，東北ブロック血液センターから異動されてきた職員にも講師を務めてもらい，学術・品質情報課ばかりでなく，他課も積極的に関わってもらい全体的な取り組みに広げることができた。参加については，任意参加であったものの，少ない回でも全体の約40％の職員参加があった（**図３**）。おなやみ相談室終了後のアンケート調査（**図４**）から「大変分かりやすかった」「楽しく学ぶことができた」等，概ね好評であり，当初の目的である略語や専門用語も理解してもらうことができた。

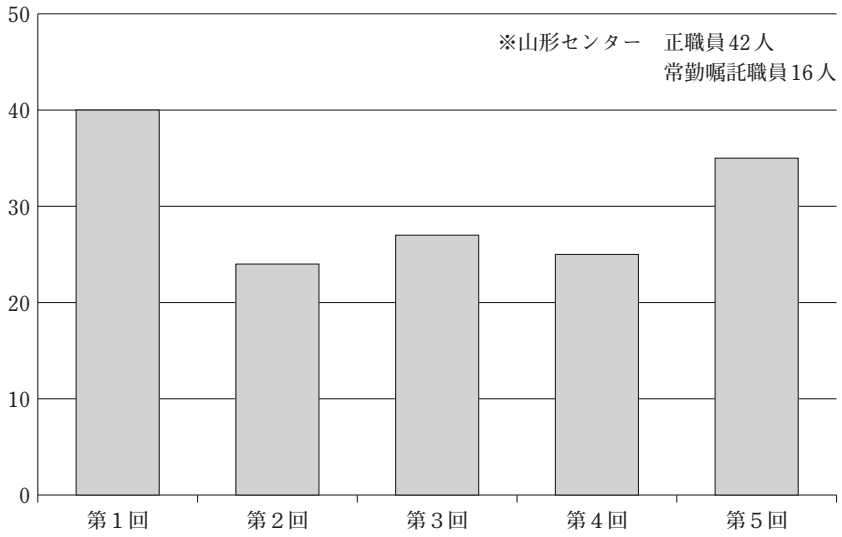
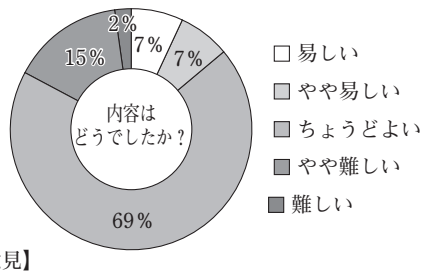
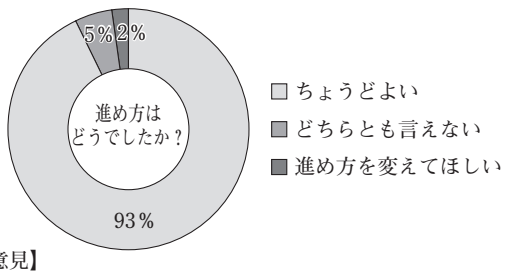


図３



【意見】
- 基本的なところを教えてもらい，大変良かった。
- 普段気になること，気づかないことを知ることができました。



【意見】
- 質疑応答を交えた形式で良かったと思います。
- 素人にも理解できるように話していただいたと感じました。
- もっと知りたいと思うが，今日の感じだとすごい時間がかかりそう。

図４

【考　　察】

一つ一つは些細な疑問かもしれないが，知って行うことと知らないで行うことには大きな違いがある。今後も職員の「知識のカイゼン」を目的し，今後は医薬情報以外の疑問についても積極的にテーマとして取り上げ，他課の業務内容を理解することで，山形センター全体のレベルアップを図っていきたい。